無痛により母子の負担軽減 家族の笑顔を生む計画分娩

近年、需要が増えつつある無痛分娩。
しかし、完全に痛みが消えるわけではなく、ストレスのない安全な出産には産科医の力量が大きく影響するという。
都内で完全計画無痛分娩をおこなうスワンレディースクリニックの岩本英熙院長に聞いた。

妊娠37週での完全計画無痛分娩により母子ともに健やかな出産を実現

医学が発達したとはいえ、出産は母親にとっても赤ん坊にとっても命がけの行為であることに変わりはない。特に、生まれたばかりの赤ん坊は無防備な状態にあり、多くの危険が潜む。例えば出生時、新生児の呼吸や循環が不十分な状態を新生児仮死と呼び、全出産の約10％に起こると言われる。続けて脳に十分な酸素が送られないことで脳細胞が損傷を受ける低酸素性虚血性脳症が起こると、脳性まひを引き起こしたり重度の後遺症が残ったりする場合がある。

スワンレディースクリニックの岩本英熙院長は、「赤ちゃんを低酸素の状態にしないためには、難産を減らすのが重要なポイント。出血多量や重度な裂傷が伴う難産は、母体にも重篤な合併症を引き起こします。お母さんの骨盤を大きくすることはできないので、赤ちゃんが適度な大きさになったところで陣痛を起こし、産道を通りやすい状態で出してあげることが肝心です」と語る。同クリニックでは、妊娠37週での計画分娩を実施している。この時点での胎児の大きさは、出産に適した２５００～３０００グラム。

「自然陣痛を待つと必要以上に胎児が大きく育ちすぎることがあり、難産のリスクが高まります。さらに週数が進むと胎児が子宮内で便を排出する羊水混濁が起こりやすくなり、胎便吸引症候群という呼吸障害を引き起こすこともあります」。

胎児（新生児）、母親の双方にとってストレスのない出産を実現する同クリニック最大の特徴は、完全計画無痛分娩だ。実は無痛分娩には種類があり、陣痛時やいきむときの痛みをあえて残している病院やクリニックが多い。対してスワンレディースクリニックの完全計画無痛分娩は、陣痛促進剤などを使って分娩誘発をし、麻酔の量を適切にコントロールすることで痛みを最大限無くすことを目的としている。この実現には高度な医療技術が要求され、医師の力量が問われるのだという。

計画通りの出産ができるので、妊娠37週０日から40週０日の間で子どもの誕生日（出産日）を予約できるサービスもある（４万４０００円～12万１０００円）。毎年訪れる子どもの誕生日がさらに感動的なものになることは間違いないだろう。

「出産は人生に数回、少ない人だと1回だけ。特に初めての出産には不安がつきものですが、陣痛の痛みに対することなら個人差はありますが無痛分娩でほとんど解決できます。出産をポジティブに捉え、人生最高の思い出になるようにサポートさせていただきます」。

「里帰り」ではなく「旅行」出産 家族の一生の思い出づくりをサポート

出産は女性にとっても男性にとっても人生の一大イベントだ。出産日が家族にとってさらに思い出深い日になるように、同クリニックでは「出産家族旅行」を提案している。実家や義実家に帰省する「里帰り出産」ではなく家族で東京旅行をするという考えで、北は北海道から南は沖縄まで、全国の家族が満足して帰っていくという。具体的には、妊娠36週から東京のホテルで過ごし、37週目に5日間ほど入院・出産。約10日間東京に滞在するスケジュールだ。院内はラグジュアリーな空間で、入院中もホテルに滞在しているかのような快適さを味わえる。

「結婚式や新婚旅行は入念な計画を練るのに、出産にはそういった文化がないことを不思議に思っていました。最近は立ち会い分娩が増えましたが、男性には出産の痛みはわからないし、むしろそのときの立ち振る舞いが原因で夫婦仲に亀裂が生じることは珍しくありません。奥さんが終始笑顔でいられて、旅行を楽しめるのは、計画無痛分娩だからこそのメリットです」。

仮に計画日より前に陣痛がきた場合や緊急の帝王切開手術が必要になった場合も、同クリニックでは医師および助産師が24時間３６５日体制で対応している。出産前後はもちろん、岩本院長が今力を入れているのが産後ケアだ。産後に関する意識調査では、初めての出産を控えている女性の約9割が、「産後に対して不安を感じている」と回答。産後は急激なホルモンバランスの変化により心と体が不調になり、不安やストレス、疲労を感じやすくなる。この間に適切なケアを行うことは母子関係や家族関係の構築、児童虐待予防のためにも重要だ。厚生労働省は妊産婦に対するメンタルヘルスケアのため、都道府県や市町村による保健サービスと、産科、小児科、精神科等の医療機関による医療サービスとの連携体制構築に取り組んでいる。産後ケア事業を行う自治体では、訪問型・デイサービス型・宿泊型の産後ケアに助成金が出るという。

分娩室。母子にとって負担の少ない完全計画無痛分娩を実施。子どもの誕生日（出産日）を予約できるサービスも提供

「当クリニックでは現在18の自治体と連携し、自己負担額を抑えて宿泊型プランを利用できるようになりました。一人で子育てに悩んでいる方やリフレッシュしたい方に向けて、赤ちゃんの預かり保育やお母さんの乳房管理・ケア、授乳や沐浴の指導、育児相談など、充実したサービスで心身の健康をサポートします」。

同クリニックの退院後はもちろん、他院で出産した場合も利用が可能だ。岩本院長は「産んだ瞬間は最高に幸せでも、その数週間後には産後うつを発症する方は珍しくありません。関係各所と連携・協力し、妊娠中から出産、産後まで、マタニティライフを一貫してサポートする体制を整えていきます」と展望を語る。

患者を第一優先で職務を全う 情熱を傾けられるこの仕事は天職

岩本院長はもともと医師志望ではなく、大学時代は政治経済学部に在籍していた。就職活動中に姉の出産に立ち会い、新しい生命の誕生に感動して一念発起。半年後に医学部の入学試験を受け、卒業後は産婦人科や新生児科や麻酔科で研鑽を積んだ。生命の誕生には昼も夜もない。忙しい毎日だが、「この仕事は天職」と語る。

「医療の世界に足を踏み込んだからには、患者さんを第一に考えて、医療者側の都合は二の次にするべきだと考えています。何かあった場合にすぐ対応できるように、基本的に私は病院の外へは出ないようにしており、24時間３６５日、医療のことを考えています。もちろん医療者自身の人生も大切なので、ほかの医師や助産師に同じことを要求するつもりは一切ありません。仕事ばかりの毎日なので他人からは大変そうに思われますが、自分では全くつらさは感じないんですよね。むしろ、この仕事がなかったら、おそらく私の人生は空虚なものになっていたでしょう。それに、これだけ熱中できるのは、全国から患者さんが来てくださるからこそ。その感謝の気持ちを体現し、皆様からの信頼に応えるために、今後もよりいっそう邁進していきます」。

5階展望ラウンジ。「人生で数少ない出産を特別な思い出に」。という同クリニックの想いが惜しみなく込められている

現場を第一優先としているため、後進の育成や論文の発表までは手が回っていないと語る岩本院長。だが、高度な技術が必要とされる完全計画無痛分娩にチャレンジする医師が増えることで、難産や産後の後遺症に苦しむ母子を救う一助になるのではないかと期待を覗かせる。

「年齢的・体力的には今がピークで、私がいつまでも同じように働けるわけではありません。当クリニックで蓄積したデータを取りまとめて、数年後を目途に発表することを目標にしています。産科医療の発展に少しでも役立てばうれしいですね」。

世界でも高い水準を誇る日本の周産期医療。妊産婦、新生児の死亡率の低さは、高度な医療技術と清潔で安全な衛生環境、妊婦健診の公費負担などにより支えられている。一方で、「子どもはお腹を痛めて産むからかわいい」といった根深い思い込みと副作用に対する過度の心配が、無痛分娩の普及を妨げている側面もある。

「無痛分娩の目的は単にお母さんの痛みを取るだけでなく、赤ちゃんがストレスのない状態で生まれてくること。そして、痛みのない計画的な出産は、夫婦仲にもよい影響をもたらします」と岩本院長。母子ともに健やかな状態で送り出すため、スワンレディースクリニックは目の前の命に向き合い続ける。完全計画無痛分娩の認知拡大は出産に対する価値観の変革にもつながるはずだ。

院長
岩本英熙
Iwamoto Hideki

早稲田大学政治経済学部卒業。長崎大学医学部卒業。同大学医学部附属病院産婦人科に入局。関西医科大学医学部附属病院（麻酔科/新生児科）、田附興風会北野病院、一佑会藤本病院（産婦人科部長）勤務を経て、2019年６月にスワンレディースクリニック開院。年間1000件以上の無痛分娩実績は日本でもトップクラス。

スワンレディースクリニック

〒114-0002
東京都北区王子4-27-7
03-5944-6028
http://www.swan-lc.com/

■ 診療時間：
月曜 ～ 土曜日
09:00 ～ 12:00/13:00 ～ 16:00
■ 休診：日曜・祝日
■ 診療科目：産婦人科

■ 取材・文責：小田中夏美　■ 企画・製作：(株)グローヴィス　Tel.03-4595-0017